生物研究

第 XVII 巻 第3・4号
1973
(終巻記念号)

THE LIFE STUDY

Vol. XVII. Nos. 3・4
(Final Issue)
December 25, 1973
FUKUI, JAPAN

目　　次

報　文

台湾産アナバチ科の研究（XV）（英文）……常木勝次…（39）
マメギングチバチの習性……田埜　正…（50）
樹脂を使用するキユビギングチバチの習性……南部敏明…（55）
トゲアシギングチバチについての観察……山田晴昭…（61）
カヤの髄に造られたヒメコシボソバチ類の巣（英文）……常木勝次…（63）
トモンハナバチの巣の1例……前田泰生…（74）
ニッポンジガバチモドキの巣……田埜　正…（77）
フタモンアシナガバチの多雌創巣例の発見（英文）……山根正気…（79）
スズメバチ属ハチ類のコロニー内の分業。Ⅲ，外役活動……松浦　誠…（81）
奄美群島の蜂類……室田忠男…（100）
常木教授採集朝鮮産広腰亜目の蜂類（英文）……富樫一次…（103）
アナバチ科2種の学名変更（英文）……常木勝次…（113）
1972年台湾で採集した蜂類……室田忠男…（115）
山梨県のアナバチ科（第1報）……須田博久…（121）
有剣類の行動等について……官野正雄…（125）
日野山のソボツチスガリの巣……常木勝次…（127）
カギバラバチ類の採集……常木勝次…（128）

採　集　行

山梨県ハチ類採集コース……須田博久…（131）

研　究　手　引

蜂類研究手引（32）。日本産キマダラハナバチ属……常木勝次…（135）

短　報

銀口蜂関係学名変更（49）。　筒巣に寄生したヒメバチ（49）。　ウスキギングチ福井県から初記録（54）。　ジガバチモドキ検索表の訂正（54）。　日本産ジガバチモドキへの追加（54）。　キユビギングチ福井県第2の記録。　岩手・秋田県で採集したアナバチ科（76，南部）。　ガロアギングチとニッコウギングチ（♀，78）。　モウソウタマオナガコバチの習性（99，富樫）。　マルバツツハナバチの巣（112）。　サッポロジガバチモドキ♂福井県で発見（113）。　スミスハムシドロバチの巣（114）。ツマアカツチバチを福井県で採集（120）。　フジジガバチの福井県内新産地（120）。　スギハラギングチについて（126）。　オタネギングチについて（130）。　エゾマエダテの学名変更（134）。　トゲアシギングチについて（150）。　ジガバチモドキの獲物（150）。　埼玉県のアナバチ科（150，南部）。　フタジスズバチの巣（150）。

CONTENTS

K. Tsuneki: Studies on the Formosan Sphecidae (XV) ……(39)
T. Tano: Nesting biology of *Entomognathus brevis* Linden observed in Japan …… (50)
T. Nambu: Biology of *Crossocerus* (*Towada*) *flavitarsus* Tsuneki, using resin to close the nest entrance …… (55)
H. Yamada: Some observations on nesting habits of *Crossocerus denticrus* H.-S. …… (61)
K. Tuneki: Nests of some Pemphredonine wasps in the pith of Miscanthus …… (63)
Y. Maeta: A nest of *Antidium septemspinorum* Lep. …… (74)
T. Tano: A nest of *Trypoxylon nipponicum* Tsuneki …… (77)
S. Yamane: Discovery of a pleometrotic association in *Polistes chinensis antennalis* Per. (79)
M. Matsuura: Intracolonial polyethism in *Vespa*. III. Foraging activities …… (81)
T. Murota: Some aculeate Hymenoptera collected in the Amami group of the Ryukyus ……(100)
I. Togashi: Tenthredinoidea of Korea collected by Prof. K. Tsuneki in 1941-43 …… (103)
K. Tsuneki: Taxonomic notes on two species of Sphecidae …… (113)
T. Murota: Sphecidae, Mutillidae, Scoliidae and Chrysididae collected in Formosa in 1972(115)
H. Suda: Sphecidae of Yananashi Pref., Japan …… (121)
K. Tsuneki: A nest of *Cerceris sobo* on Mt. Hino, Fukui …… (127)
K. Tsuneki: On Trigonaloidea of Japan …… (128)
K. Tsuneki: A guide to the study of the Japanese Hymenoptera (32). The genus *Nomada* Scopoli …… (135)

10. *Smicromyrme* sp.　1♂, 本部溪, 23. VIII.
11. *Smicromyrme friekae* (Zavattari)　3♂, 本部溪, 23, 27. VIII.
12. *Smicromyrme rapa* (Zavattari)　2♂, 本部溪, 23. 27. VIII.
13. *Smicromyrme* sp.　1♂, 本部溪, 23. VIII.

VI. セ イ ボ ウ 科

1. *Chrysis* (*Trichrysis*) *formosana* Mocsáry　4♀, 四重溪, 4. VIII; 1♀, 瓦厝埔, 13. VIII; 1♀, 楓樹林, 25. VIII.
2. *Chrysis* (*Trichrysis*) *taial* Tsuneki　5♀, 四重溪, 4. VIII.
3. *Chrysis* (*Chrysis*) *fuscipennis* Brullé　1♀, 四重溪, 4. VIII.
4. *Chrysis* (*Chrysis*) *schenklingi* Mocsáry　1♀, 四重溪, 4. VIII.
5. *Chrysis* (*Chrysis*) *cavaleriei* Buysson, 1908　1♀, 楓樹林, 25. VIII.

本種は南支 (Kuoy Yang) より記録され, その後朝鮮から発見されたリンネセイボウに似た美麗種である。台湾初発見。台湾のものは顔凹部の両側に点刻がより広く分布する点で朝鮮のものと異なる (常木記)。

6. *Chrysis* (*Pentachrysis*) *lusca* Fabricius　1♀, 恒春, 3. VIII; 2♀, 船帆石, 3, 6. VIII; 1♀, 四重溪, 4. VIII; 13♀, 瓦厝埔, 13. VIII; 8♀, 埔里, 25. VIII; 1♀, 楓樹林, 25. VIII.
7. *Chrysis* (*Pyria*) *principalis* F. Smith　2♂, 船帆石, 3. VIII; 1♀, 墾丁, 3, VIII; 6♀, 四重溪, 4. VIII; 3♀, 埔里, 22, 25. VIII.
8. *Stilbum cyanurum splendidum* Fabricius　1♂, 墾丁公園, 5. VIII; 1♀1♂, 瓦厝埔, 13. VIII; 1♀, 楓樹林, 25. VIII; 1♀, 埔里, 26. VIII.

ツマアカツチバチを福井県で採集

1♀, 福井県日野山頂上 (800 m), 18. VIII. 1973. *Scolia* (*Discolia*) *sinensis* Saussure は中国, 台湾, 朝鮮に分布し, 日本からはこれまで記録のないツチバチである。それが武生市のすぐ近くの日野山で, 田埜正さんと採集中偶然に1頭とれた。この山は頂上が広い細長い平らの裸出地となっていて, そこの3か所に祠がある。その中央祠付近に飛んできたのを網に入れた。少し羽のすりきれた個体であったが, どうも迷蜂のようである。この山には私は何十回も登っており, この年も6回も登っていて, 同山に多いツチバチには特に注意してきたのに, これまで1度も見たことさえなかった。同日は頂上に福井県に定住しないツマグロヒョウモンも数頭おったし, 数日前に朝鮮を経て日本海を通過した熱低と, 四国沖を迷走した小台風のことを考えると, これらの虫の由来を推察できるように思う。　(常木)

フジジガバチの福井県内新産地

1♂, 日野山表登山道, 23. VII. 1972. この蜂は戦前には福井県にも珍しくなかったようだが (福井県産原色昆虫図譜), 戦後はほとんど見かけなくなり, 最近になって松岡町内に残っていることがやっとわかった (奥野, 生物研究, XIII: 43, 1969)。ところが武生市日野山で上記のように1頭とれた。この山にはヤマジガバチは中腹以上に極めて普通に見かけられるが, フジジガバチを見たのは前後を通じてこのときだけである。すなわち極めてまれなものになっていることが推察され, 産地と呼ぶにはふさわしくないかもしれない。とれた場所は中腹の水場より少し下方である。　(常木)